

第 4 回 魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会 議事録			
会議日程	令和 7 年 3 月 6 日		午後 7 時 00 分 開会
	令和 7 年 3 月 6 日		午後 8 時 45 分 閉会
場 所	本庁舎3階 303会議室		書記 井口 啓一
出席委員	委員長	雲 尾 周	副委員長 栃 倉 敦
	委員	尾 山 寿 一	委員 谷 脇 祥 子
	委員	青 山 直 樹	委員 佐 藤 隼 人
	委員	荒 井 安 代	委員 内 田 美 保 子
	委員	土 田 知 美	委員 佐 藤 玲 子
	委員	梅 田 愛 子	
欠席委員	委員	佐 藤 志 緒 美	委員 上 村 学
	委員	櫻 井 裕 介	委員 大 関 み どり
事務局	教育長	樋 口 健 一	学校教育課長 岡 部 忍
	管理指導主事	五 十 嵐 哲 也	管理指導主事 米 山 智
	教育センター次長	須 佐 光 行	学事係長 星 野 巧
	庶務係長	井 口 啓 一	

## 会議事項及び議事の経過

### 日程第1 開会宣言

(委員長) これより、第4回魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会を開催します。

### 日程第2 委員長挨拶

(委員長) (あいさつ)  
・少子化の急速な進行について

### 日程第3 議事

#### (1)学校の維持等にかかる経費について

(委員長) それでは議事に入ります。(1)学校の維持等にかかる経費について事務局から説明をお願いします。

(事務局) ご説明いたします。  
(資料「学校施設にかかる経費」により説明)

資料1 校舎の維持にかかる経費について

資料2 校舎の新築にかかる経費について

(委員長) ただいまの説明につきましてご質問等ございませんでしょうか。

(委員) 資料2(校舎の新築にかかる経費)では、校舎・体育館・武道館・グラウンドとありますが、プールについてはどのように考えていますか？

(事務局) ここに載せていないからといって、造らないということではありません。今回の試算ではプールを除外させていただいておりますが、プールを造るとなるとプラス何億円か足されることとなります。

(事務局) 小学校では(現状として)100%に近い数字で(プールを)設置しています。基本的に水泳授業をするというふうに考えています。中学校につきましては、複雑になっていまして(体育授業の考え方として)領域がありその中に種目がいくつもあり、選択制になっています。3領域の中から2領域を選び、さらにその中から何種目か選ぶとすると、(プール)施設がない場合は水泳授業をしないという選択が可能となります。そのため、現在、魚沼市では、中学校の水泳授業をしていないということです。

( 委 員 ) 私に以前住んでいたところでも小学校は統合してプールも新しく造っていましたが、中学校にはありませんでした。市長は市として新しくプールは造らないと言っていました。プールを新しく造ると約1億2千万円かかると聞いています。熱中症などのことを考えると屋内プールも必要だという議論もPTAであります。学校ごとにプールを造るのか、(共同利用として1つ造るのか)によって数字が大きく変わると思います。

( 教 育 長 ) 教育環境を整える上で、学校施設の中にプールは必要だと思います。ですが、プールについては複合施設という視点もあります。  
市長が今造らないと言っているのは、市民から要望が出ている温水プールのことだと思います。単独の温水プール建設については、造らないとしています。

例えばですが、10年後、15年後に中学校をまとめて1つのきちんとした建物を作りましようとなったときに、「中学校にプール施設も必要だ。それを市民も利用できるような複合施設にしましよう。」という発想は十分あると思います。ですが、今現在そこまでの判断はできません。それから、都会の方では学校施設にプールを造らず、民間のスイミング教室等のプールを活用し、そこに指導も委託をして、水泳の授業になったらスクールバスでその施設に行き水泳授業をするというようなこともあります。

今後、例えば小学校は今8校ありますが、それが5校、4校になった場合に、どのようにプールを配置していくのか、1つきちんとしたものを造って、そこにみんながスクールバスで行って利用しましようとかいう発想もありますし、いろんな考え方があります。プールをどうするかというのは、統合等についてのある程度の考えがまとまっていく中で出てくる話なので、今この話し合いの中では、プールに特化して話をするというのは、あまり建設的ではないと思います。

( 委 員 長 ) それでは、(1)学校の維持等にかかる経費については終了とします。

## (2)魚沼市における中学校の適正規模について

( 委 員 長 ) つづきまして、次の(2)魚沼市における中学校の適正規模について事務局から説明をお願いします。

( 事 務 局 ) ご説明いたします。  
(当日配布資料により説明)  
資料3-1 私たちが考える適正規模は?~中学校~  
資料3-2 中学生の人数と学級数の推計

( 委 員 長 ) ただいまの説明につきましてご意見等ございませんでしょうか。

( 委 員 ) どの市も町村もそうかもしれないですが、全国的に人が減るのは承知しています。今回のこの委員会では、どこまで先のことを考えた方がいいのか、というところが1つあります。東北大学の先生が「695年後には日本での日本人の子どもが生まれる数が1人」ということを言っています。極端な話、その頃には魚沼市には人がいない、一人も子どもがいないということも考えられます。

10年先を考えればいいのか、やっぱり20年先のことも必要があるとか、でもRC構造、鉄筋コンクリート構造は耐用年数80年という話もあるので、もう少し先まで考えようとか、その見方次第で数字が大きくずれてくるので、答えの出し方が難しいと個人的に思っています。

( 事 務 局 ) 確かに本当に先の見通しは、私たちも「何年後」というのは難しいです。そこで終わるわけではないので、当然その先もあるので、なかなか難しいなと思いますが、1つの区切りというか目安としては、10年先を見て考えていく必要があると思います。ただし、10年後がゴールではないので、そのときベストだと思っても、その先はまだわかりません。今の時点では50年後の教育環境をどうするかと言っても、話にならないと思うので、まずは10年後にどういうふうになっていけばいいのか、というところを考えていただければありがたいと思います。

( 委 員 長 ) 既存校舎の活用という点で言うと、いろんな組み合わせを考えることはすぐできると思います。ただ、例えば1校学校を造るとなると、どうしても土地の選定、取得、整地、設計とか、それから建築になるので、最低でも10年はかかります。例えば3校を統合して1校を造ろうと思って計画を始めたなら、もうその時にははるかに小さな人数になってしまっていて、今更造らなくてもみたいなことになります。

- (委員長) そういう点で見越していくと10年、12年先まで人数が確定していて、さらにもう少し先まで見た方がいいのかもしれないです。今のまま全部改築を進めていくのならば、それで何とか進みますけれど、もう少し大きく変えるのならば、やはり15年か20年ぐらい見た方がいいかなと思います。
- (事務局) 一応私の方では10年というお話をさせていただきましたけど、委員長から15年、20年スパンというお話もありました。  
3-2の資料をご覧いただきたいのですが、R18では、学級数だと1年生4学級、2年生4学級、3年生5学級ですが、その先を見て行くとしばらく4学級3学級とR40までは比較的学級数は減らないでいくのかなと考えています。人数は確かに減ってしまうのですが、人数は減ったとしても学級がある限りは教室は必要になるわけですし、規模的には学級数を基準に考えていくのがいいと思いますので、10年、15年、20年という、あまり大きな変動はないと考えています。
- (委員) 資料3-2は市内の中学校の推計だと思いますが、R32年では40人学級が(各学年)3クラスずつで9クラス。ということは、今5校ありますが、3校で1クラスずつということでしょうか。
- (事務局) この資料では、(学校の数を)何校にするということではなく、市内全体の中学生の数を単純に、40人学級にした場合の目安です。仮にこれが2つに分かれていれば、1クラスと2クラスの場合もあれば、2クラスずつの計4クラスも考えられます。学校数によって数は変動します。
- (委員) 1校で40人学級のクラス数として見ればよいですか？
- (事務局) そうなりますが、(事務局案として)1校にするということではないです。
- (委員長) 資料の3-1と3-2を比べてもらおうとわかると思います。3-1ですと、令和18年には小出中学校は(1学年)2学級です。あとの4つの中学校は1学級ずつあるわけなので、1学年あたり6学級となります。でもこれを仮に全市で1つの学校と考えた場合には、資料の3-2にあるように、3年生は5学級、1年生2年生が4学級になるということです。(今の学校数のままだと)4つの中学校では30、40人よりも大分少ない生徒数の学級が維持されることになるだろうということです。
- (委員) 北中が1年生4人、2年生7人となっていますが、中学校の複式学級はないものなんですか？
- (事務局) 中学校でも複式学級はあります。続く2つの学年が8人以下の場合は複式となります。小学生の場合は続く2つの学年が16人以下です。教科担任制と学級担任制の違いだと思います。
- (委員) ここには資料がないですが、令和19年になった時には(新1年生の数によっては)複式学級もあり得るということですか？
- (事務局) 各校区ごとの減少率は出していませんが、この数字から推測するとその可能性はあります。新生児が4人以下だと複式学級になります。
- (委員) 複式学級の弊害というのは、宇賀地小学校でも話題が出ていて、特に母親は結構抵抗があります。保護者としては、複式で学校維持するとなるのだったら統合して複式をなくすということもなくはないのかなと思います。  
ただし、学校が遠くなるという負担感もあり、メリットとデメリットがあるので、いつかは統合しなくてはと思いますが、私は今は答えが出ないです。
- (事務局) 今までの議論の中でも小学校は小規模で少人数で見てもらいたいという話が出ていました。それが中学になったときはある程度規模が大きくなった方がいいという意見があったと思います。小学生と中学生ではやはり違う。ということで、中学生になると、より社会との繋がりなども当然勉強していかなければならない時期になると思います。通学距離の問題も前は多少「中学生頑張れ」みたいな話もあったかと思いますが、今回は中学校に絞っての話なので、中学生だと少人数よりは、ある程度の人数がいた方がいいという話でしたが、皆さんの方で中学校をクローズアップしたときに、どんな思いがあるのかというところを聞かせてもらいたいと思います。

- ( 委 員 ) 中学校に関して思うのが、(生徒の)人数が少なく先生の数も少ないってなると、指導の仕方どうしても限定的になってくると思う。小出中に娘がいますが、学年に数学の先生が2人いても、その先生によって教え方が全然違う。その子に合う合わないはあると思うが、教え方が違って、こっちの先生はわかりやすいけど、こっちの先生の教え方がよくわからなくて、テストもその先生が作ると、もうちんぷんかんぷんというのが今回定期テストとかでもあった。
- ( 委 員 ) 魚沼北中は少人数なので先生の数も少なくなると、保護者目線でみると高校受験とかを見据えたときに、学力の差がすごく出てくるんじゃないかと思ったりする。英語に関しても、小学校4年生ぐらいから割としっかり英語をやったりします。他の学校の先生が教えに来ることもあると言っていたと思いますが、魚沼市は中学校の学力が低下しているとか言われている中で、またさらにここで学力がガクンって落ちていったら、将来、10年後の子どもたちは、ますます高校受験とか、そういうことが厳しくなっていくと思う。  
女の子で、ある程度思春期なので合う合わないが出てくる。人間関係のつき合いも複雑になってきている中で、(生徒数が)4人だったらもう逃げ場がない。極論だけど、それこそ不登校とか、(学校に)行かなくなるという方向にもなってくる。学力がついてこなかったら、ますます学校に行きづらくなる。  
高校も入学してすぐに振り返りテストみたいなのがあったりするるので、その際にもやっぱり中学の出身校で、すぐくばらつきが出てくるんじゃないかと思う。
- ( 教 育 長 ) 資料3-1の令和18年度のところで、魚沼北中の人数は、1年生4人、2年生7人、3年生6人、全校で17人3クラス、各学年1クラスです。ですが、実は広神中も湯之谷中も堀之内中も3クラスなんです。各学年全部1クラスなんです。だから、人数的には魚沼北中がすごく少ないように見えますが、40人以上にならない限り、他の小出中以外はみんな単学級の学年1クラスなんです。教員配置は学級数で決まりますから、全部同じく5~6人しか教諭は配置されないという状況になってきます。資料3-2のように、もし全部を1つにまとめた場合は、1年生144人、2年生140人、3年生170人で、学級数としては1年生と2年生が4学級、3年生は5学級、全校で13学級という規模になるという見方ができます。ですので人数だけではなくて、学級数で(決まる部分もあるので)、そこも少し考えていただければと思います。
- ( 委 員 ) 勉強とか学力の話じゃない角度からなんですけど、中学校になると、体育祭も然りですけど、合唱コンクールとかイベントがあります。令和18年の魚沼北中の場合、合唱コンクールで(生徒数)4人だと、パートもままならないっていう状態になる。小学校のときもまだ運動会とかありますけど、いざ大人になったときに、高校・中学の話ってというのが自分の世代でもやっぱりいまだに出る。人として作られてくる世代のときにそこで、競ったりとか、自分たちだけ発表して終わりとかじゃなくて、例えば最優秀賞とか、指揮者とか、体育祭でも優勝準優勝や応援のシンボルとか後々記憶に残るとことを考えると、このときの子どもたちが大人になって、どう思うかわからないですが、物理的に非常に難しいってというのはバックボーンにあって、市の広さの問題があると思うが、できることであれば中学校の規模というのは大きい方がよい。せめて1学年で複数クラスとなる規模の方が望ましいと思う。
- ( 委 員 ) 以前の話で中学校は2クラスがいいみたいな話があったかと思いますが。そうすると、学校の数とすれば、2校~3校になるのでしょうか？
- ( 事 務 局 ) 今の5校の校区を考慮しないで考えた場合ですが、3校だと単学級になる可能性があるんで、2校であれば(2クラスになると思います。)
- ( 委 員 ) 2クラスがいいねという話が以前にあったので、それでまとまってくれればいいけど、この数字を見たときに結構真剣に考える必要があると感じた。  
2校になると、さらに送り迎えとかの問題が出てこないですか？

- (事務局) 令和18年を基準に考えて、生徒数が454人ですので、仮に2校つくと今の小出中学校よりも少し小さい規模の学校が2つとなります。  
今の小出中学校が特別支援学級を除いて2、3、3(クラス)。ですから多分境界線は220人位なので、「2、3、3」か「2、2、3」くらいの学級数となります。そうすると、7学級もしくは8学級で、やっと全教科の教諭が配当できる可能性はある。しかし、家庭科や技術に比べて英語等は時間数(授業数)が多いので(教師が)2から3人必要となる。そうすると、配当されない教科の先生がいる可能性があるということです。  
2校にした場合の話をしました。だからといって、1校がいいとか3校がいいとかではないです。
- (教育長) 委員から話のあった通学距離についてですが、市内で中学校を1校にする。或いは2校にするというときには、今は5校体制ですから、当然どちらにしても通学距離が伸びる地域が出てくるだろうということは十分予想されます。ただ、子どもたちが、学校という場で学ぶ環境を整えるときに、その学校規模をどんなふうにしていったらいいのかと言うのを、考えていただいていますし、それに伴って通学距離の問題も出てきますけど、以前にお配りしてある資料でも見いただいています。国の通学時間の考え方等もありますし、市としてもスクールバスをフル活用しながら通う体制を整えるということになりますので、その辺のバランスをどういうふうに見ていくかっていうことになりますし、もし1校ということになった場合には、どこに1校を置くのかによっても大分違うと思いますが、当然そうなれば、ある地域はすごく近くある地域は非常に遠く今の倍もかかるとかということ、避けなくてはいけないと思いますので、そこはもちろん配慮しながら、どこからも均等になるような位置ということを配慮しながらになると思います。そういうこともみんなバランス的に考えていく中で、適正な教育環境としてどういうふうを考えていったらいいかということになるかと思っています。
- (委員) スクールバスの手配というのは、簡単に言うと人の手配、バスの台数がすごく多くなる。少子高齢化の中でそうした人が対応できるのか、コスト増になってくる。中学校の生徒にくまなく通学サービスができるのか、そこが少し引かかかる。
- (事務局) 本当にこれからの人の手配というか、人の手当が一番難しいと思います。今現在でもなかなか、どこでも人手不足ということなので、そこは本当に難しいと思います。考えていかなければ当然いけないし、できませんというわけにはいかないの、何とか知恵を出さなければいけないと思ってます。今、できまとも言えませんが、仮に1校になれば先ほど言ったようにどこに学校を置くかによっても距離も違ってきますし、それが1校になっても2校になってもスクールバスの手配は絶対に必要で、今の時点でも国の基準は中学校だと6キロですけど魚沼市は3.5キロ、冬場は3キロでやっています。ただ、いろんな状況、気象条件とか不審者の条件もあって、なるべく短いところからスクールバスを出してくれということで、現実的には今でもちょっと汲々としているのが現状なので、これが距離が延びるとさらに厳しくなるだろうということは当然だと思います。あとは、国は一応1時間以内としています。子どもたちが通学に毎日1時間、耐えられるのかどうかもわかりませんが、子どもたちの通学距離、時間の長さというのも問題になってくると思います。
- (委員) 数字があまりにも厳しいので、両立できる手段が描けない。学校を豊かにするためには、学校の数が少ない方が豊かになってますね。ただ、通学を考えてしまうと、冬は1時間が1時間20分とかになる場合もあります。当然、除雪車が入ってこなければ、堀之内の奥なんですけど、これはもう無理だなという感じもします。そういった諸条件を全部クリアすると、どこに着地点を持っていけばいいのか。この令和18年度の数字を見てこの話をしてるので、学校の新築を10年プランで考えて20年先のことを検討してくださいみたいな話もある中で、まずそこに引っかけが出てくる。

- ( 委 員 ) 高校の話は今回は議題にならないのですが、小学校、中学校（を卒業して）高校なので、例えば堀之内から電車に乗って長岡に行くとか、六日町に行くとか、そういう生徒がたくさんいます。冬、今シーズンも上越線が結構止まったので、結局通えずリモート（授業となる。）リモートとなると結局授業についていけなくなって、成績が落ちて、ぎりぎりで何とか卒業したのですが、そういうことも魚沼市民の保護者としては見ている方がいると思う。
- 実際、六日町にいる方がもう将来を見越して高校の拠点に家移したという事例が、私の職場の中で1人いて、もう通えないことも見込んだ中で、小学校、中学校も最初から長岡市に行くという話も実際には現実的にありますので、その見方も少し加味して考えていかないといけないと思います。
- ( 事 務 局 ) (委員長にお伺いしますが、) 他の自治体での議論でもスクールバスとかは議論されているかと思うのですが、それを表に出してしまうと、なかなかその先の議論が難しくなってくるのですが、他の自治体ではどのように進めていますか？
- ( 委 員 長 ) 例えば関川村では20世紀の終わりぐらいの頃には2中、7小あったのですが、人口が8千人ぐらいから5千人ぐらいまで激減する中で1中1小にしたわけです。関川村はものすごく広いのですが、全部谷筋なので、そこをスクールバスが回ったら何時間かかるかわからないので、全部谷筋にジャンボタクシーが入って行って、そこ的人数だけ拾って集まるみたいな形でやっている。でも、すぐ近くに小学校と中学校がありますのでそこにもう集中的にやるという感じでスクールバスというワゴンになりますけど活用してます。
- 十日町でも今検討してるのは結局1校にした場合に、ものすごい時間がかかるということは見えてるので、それをどうするかということは、シミュレーション中という感じです。特に松之山学園から、出てくるだけでも普通に走っても1時間かかるころ、雪のときにはどうなるんだろうみたいな話は今検討中ではありません。
- ( 事 務 局 ) リモート授業の活用をして距離をカバーするみたいな、今の冬場の通学が大変なときには、リモートでカバーとかそういう話は出てないですか？
- ( 委 員 長 ) まずリモートが普及したのはこの5年ぐらいの話なので、それと統合をあわせてやっているというわけではまだないです。これから先、中学校とかでも、遠距離になって、今日は道が閉ざされていていけないということであれば、家からリモートでつなげることができるだろう。そうするとなると前提としては各教室から常に繋いでいくっていう状況がいつもやればいいいわけですけど、先生たちは、それをセッティングするのが面倒くさいとか、つなぐのが面倒くさいとかいう話になっています。でも実際それがもし実現すれば、例えば何らかの形で教室に来れない子なんかもそれで授業を受け続けることができるので、そういう不登校の子もそれによって出席扱いにするといったようなことを本来的には柔軟的にできればいいのでしょうか、コロナ禍があげた後、それがびたっと止まってしまったので、うまくいってないところもあります。あともう1つはWi-Fi環境が十分整っているかといったときに、全校で一斉に使うと、ダウンするという程度のレベルでしか通してない学校もあるので、そういう学校だとそういうところも課題となっている。そういう設備面から実現しないところもある。
- ( 委 員 ) 上越線が雪で止まっても試験とか主要なときは、堀之内から長岡まで1時間半かけて17号線が大渋滞のなか送っていました。そういう苦い思いをみんなしてる。中学校のリモートという話も、いいところと悪いところは当然皆さんご存じかと思いますが、うちの子はリモートから授業についていけなくなったんです。リモートが代替えとしていいねとかというふうには、なかなか言い切れない。

( 教 育 長 ) 高校は広域なので、少し話が違ふと思います。上越線などの電車も使って全県1学区の中で選択して行っています。(今回の検討は)魚沼市の中学校の適正な規模についてやっています。リモートもコロナ等で休校のときにはみんな来れないので、配信をするような形でしましたけれども、今現在リモートは緊急の場合、集まらない場合等の対処としてやっていますし、それから不登校の子どもたちがリモート授業を見てやっていると活用してはいますが、学校規模とか統合の問題とはまた違ふので、そこは話を戻していただいて、各学校が令和18年のときには、小出中学校以外は全部、学年1学級規模になるというこの現実と、それから確かに距離は考えなくては行けないので、距離については最大限こういう配慮が必要じゃないかとか、というようなご意見も含めて、学校規模として中学校はどのような形がいいのか、学力のことを考えたときには、やっぱり大きい方がいいのではないかと、学校行事ではお互いに競い合うくらいの環境が必要ではないかというのもあると思いますが、その辺を加味してどんな規模がいいのかという辺りをそれぞれ委員の皆さんからご意見いただければと思います。

( 委 員 ) いろいろ考えだすと難しい問題だなと思いつつも、令和18年度のこの数値を見て私は衝撃を受けていたところです。義務教育期間の中で何を子どもたちの環境で大事に考えたいとか、私自身も我が子がどのような環境に身を置いて欲しいかなと思ったときに、やはりリアルな人間関係をちゃんと育てる環境というのが、1つ大事にしたいなというのが私の意見です。学力とか通学面というリスクとかどうすればいいかっていうところも付随してくる場所ではあると思うのですが、小規模になればなるほどリアルに関わる人間の数というのが少ない現実というところはすごく懸念するところです。今後、リモートだったりオンラインだったりネットだったりとかそういった時代背景も含めて、世間が、これからいろいろもっと進んでいく中で、子どもたちが子ども同士、同じ世代同士の関係の中でちゃんと関係を築けないことのリスクは、すごく感じていまして、そういう視点から適正規模がどれくらいっていうのは具体的にはわからないですが、少なくなりすぎることによってのデメリットの部分で感じているのが私の感覚です。

( 委 員 ) 私、魚沼北中に子どもがお世話になっていますけども、実際に本当に少人数ということで、この人数を見て愕然としました。正直言ってこの人数では、何も行事が成り立たない。  
もうゴールは決まってるというか、1校にならざるをえないだろうし、前回の資料の中で、通学時間概ね1時間以内とか、距離はこれが遠距離通学になるとかも決められていますけども、これに縛られてると何も進まないと感じています。

( 委 員 ) 例えば5年後は4校、10年後は2校、20年後は1校となると、その都度その都度考えていかなければ行けないっていうのは、無駄じゃないですかね。  
ここで1回みんなで地図を広げて、ここに学校つくろうとか、そこから始めた方がいいような気がしています。また、既存のものを活用するとなれば、2つぐらいモデルを作ってから、みんなで話をした方が、進むんじゃないかなって思うんです。

( 委 員 ) 何回も出てくる物理的な問題をどういうふうに縮めていくか、先ほど委員長が言われたように、もうジャンボタクシーを使うしかないと思っていたのですが、それも1つの考えだし、リモートっていう今のやり方もありますけど、逆に福山スタイルという考え方(もあります)下宿。みんなで集団生活も選択肢の1つだと思います。昔に比べればいろいろな問題はあるんですけど。だからもう規模どうこうというよりはもう、1か2なんだと。1か2で今話が出たようにそれをどこに配置するんだってことで、魚沼の地図ってあんなに広いんですけど、実際の人が住んでるところってなるともうちょっと半分以下にきつくなるわけですね。コンパスで線引いて、1だったらこの辺だし、2だったらこの辺だし、そうすると一番遠いところがどこだよっていう話になって、そういう人たちのために、その2校の真ん中に例えば合宿所を作ったとして、手を挙げた人たちがそこに泊まれるようにして、冬だけでもそこに泊まるとか。平日はそこから通うとかっていうそれも1つ。  
子どもの教育というところでは、人付き合いというのを考えたりすると、今の時代に沿ってはいないんですけど、駄目じゃないのではないかという気もしたので、本当に1か2っていうのでも、1回進んでみたらいいのではないかと思います。

- ( 委 員 ) 私も1校にしたほうがいいなっていうのはすごい感じていて、何年か前に広神中学校に、入広瀬小と須原小の卒業生たちを統合するっていう話があったときに、子育てで忙しくて、あまりその話に耳を傾けないでいました。  
魚沼北中ができて、広神中は入らないで、入広瀬中と守門中と一緒になったという話を後から聞いて、なんで3校を一緒にしなかったんだろうって漠然と思っていたんです。  
人間関係を考えたときに、大人数の中で接した方が適正規模だと思いますし、令和18年度が4人っていう数字を目の当たりにすると、すごいびっくりはしたんですけど、絶対こうなるといのは、学校の活動とか私も守門で暮らしていて、すごくそう思いますし、体育祭とかしてても、規模が小さすぎて、応援してるおじいちゃんおばあちゃん父兄の方が多くて、少し気の毒みたいな、もっと盛り上げてあげたいなという気持ちになったりするので、1校か2校よりも1校で思ってます。ただ学校の先生たちの事情があるっていう話もこの会議の始まりのときに勉強させてもらったので、保護者の意見としては、この魚沼市は1校がいいのではないかと感じています。
- ( 委 員 ) 例えば1校にした場合の先生の数について、クラスが多くなれば、子どもも多いわけですけど、先生を配置する数としてはクラスが多い方が、よく見てあげられるようになるのかどうか。たまにしかいらぬ教科の先生、家庭科の先生を例えば市内の学校で1人雇ったのに、1校になった場合その先生はクラスが多ければ1人雇えるのか、でも英語の先生がたくさん必要だった場合、どこか市外から連れてこれるのか。2校あった方がたまにしかいらぬ先生がしやすいのか。遠くから連れてこなきゃいけないのか。それとも2校あって、クラスが40人ギチギチよりも、30人ぐらいずつだといいいですよ。1つの教室に40人ギチギチに入ってるより30人ぐらいの教室で2クラスずつあった方が、先生をいっぱい雇えるのか。
- ( 教 育 長 ) 例えば2校としたら学区制になるので、どこの地域がA校に行く、どこの地域がB校に行くとなりますから、2校だから、1クラスの人数が減ってよくなるとは限らないんです。
- ( 委 員 長 ) 小学校をベースにして考えていくと結局、綺麗に線で分けられないので、どこかの小学校を分けるとかであれば別ですけども、なかなかそれがしにくいっていうのはあります。
- ( 教 育 長 ) それから家庭科とか時数の少ない教員が、兼務という形で配置をされますと、その時間しかいないので、学校としてはずっとは、いらっしやらないわけですよ。水曜と木曜はこの先生はいないとかという形になるので、いろんな校務分掌を作ったりとか、生徒指導とか生徒会の役員の担当とかっていうときに、週のうち半分はいませんという先生になると割り振りがしづらい。だから常駐しているオールスタッフでこういうふうにしてみんなやっていこうっていう方が学校としてはやりやすいです。
- ( 委 員 ) もう常駐しないっていう発想の中で、時数が多い先生方を配置されて、時数の少ない教科の先生を講師っていう形でプラスワンとかっていう考え方はできないですか？  
その時間その時に来る正社員じゃない先生とか、その授業があるときにだけ来るみたいな発想はできないですか？
- ( 委 員 長 ) 魚沼市で考えると、当然市外からお願いすることになるので、例えば南魚沼市の大和中にいる技術・家庭科の先生から来てもらおうとすると、代わりに美術の先生を魚沼市に置いておくから、その先生が代わりに2日行くとか、そういう市を超えたやりとりをお互いにやっていく形になるので、すべてを非常勤講師みたいな形で置くわけにはいなくて、ある程度は置いといてという形になります。
- ( 委 員 ) 会社みたいな考え方で、1回退職された方を臨時で復活してもらおうとかっていうのは先生業界ではない話ですか？

- ( 教 育 長 ) 生徒の数が決まって学級数が決まって、それに対して県は何人という形で、中学校の場合は教科バランスを考えて、この規模だったら英語の先生は2人いるとか、数学は3人いるっていうことも考えながら配置をしていきますので、基本はそれで回すんですけど、ただ規模が小さくなると、5~6人しか配置されない。技術系の先生とかはもう配置の人数の中に入ってこないの、仕方がなく、兼務という形でその時間だけ来るといって教科が発生してくる。だから加えてプラスで来るっていうよりは、枠の中で賄いきれないので、その時間だけ来てもらうということです。
- ( 事 務 局 ) 例えば時数の問題があって、単純な授業の担当時数はそうなんですけど、実は授業だけしてればいいわけじゃなくて、不登校のお子さんだとか、あと学校には来れるんだけど教室に行けないお子さんっていうのもいらっしゃるの、いわゆるサポートルームとかいろいろ名前があるんですが、そこに来ている子どもたちを、その部屋に放置するわけにいかないの、誰か職員をつけなきゃいけないの、そうすると余裕のある先生が授業ができないかもしれないけど、例えば実習を一緒に見てあげるだとか、中には一緒に指導をしてあげるのもあって、学校現場の職員というのは、子どもが来ていれば、やはり子どもに対応する、それが授業の時間の対応だとか、今のような対応なのかっていうのをそれぞれの学校の中で模索しています。
- ( 委 員 ) お話を聞いた感じだと、多分、全部がみんなの思う通りというのは、絶対にもう存在しない。では、何をとるのかと考えると自分が今聞いた感じだと、学校の規模をとって、物理的な通学の問題をどうにかする策を考えた方が、話が早そうな気がしています。
- ( 委 員 ) 少人数は少人数の良さがあると思うけど、この数字を見たらもう1校にした方が、いろいろな話がスムーズに進むと思います。通学に関しても、入広瀬なんですけど、小学生と中学生と一緒に乗ってきたりだとか、さっき話のあった下宿みたいなのは、子どもとかは喜ぶと思う。今は、結構何でもできるじゃないですか家でオンラインもできるし、それこそリモートもできるし、やろうと思えば自宅で何でもできるんですけど、そこをあえて、例えば通学が少し不便だったら、そういう子たちが集まって、生活をともにしてというか、そんな長い期間ではないと思うので、うちの子もやっぱり電車止まって何日かリモート授業とか受けたりしてましたけれども、やっぱり学校に行きたいなっていう言葉がありました。全員が全員ではないと思うのですが、みんなと一緒に学校で学びたいっていう気持ちがある子が多いと思うので、できればもう学校も1つにして、距離も何とかなると思います。
- あと学習面で、例えば距離が長くなるとその分の時間が他の子と時間の使い方が変わってくるということもあると思うのですが、それは、その時間の使い方をどうするかっていう、その子自身の自立とかにも繋がると思うので、あまり距離がっていうところまで考えなくていいのかなと思います。
- ( 委 員 ) 人数の推移から言っても1校でしか考えられないというか、もう1校で決めて考えた方がいいのではないかと思います。距離についても、保護者としては「もうこうなった」っていうふうになれば従うしかない。こうなったけれどもスクールバスであったり、こういうことはしますっていうことをきちんとしっかり整備して説明いただければ、多分保護者の方も納得いくと思います。
- 少人数ならではのよさもありますが、中学校になってくると人間関係とかを学ぶところも多くなってくると思うので、学級数は多い方がいいと思いますし、行事とか小学校では味わえなかった人数の中での経験なども出来た方がいいと思いますので、1校に絞っているいろいろ整えていった方がいいと思います。
- ( 委 員 ) 距離も(仮に)小出までだとして2番目くらいに遠距離ですが、そうなればそうするし、そこまで(の負担感)は思っていない。令和18年の魚沼北中学校1年生4名、これは自分の車に乗せていけるぐらいの人数だ。
- プランを1つ作ってみて、送迎はこうやってみようかとか、進めた方がいい。何かを作ってから夢を作るんじゃないで、夢を決めてからやった方がいいのかなと思います。

- ( 委 員 ) 自分の子のことだから、親は何とかするし、自分の子のいいように環境を整えるのだったら、距離の問題の負担を強いるかもしれないけど、(すと思ういます。) それこそ小出中で、2キロちょっとしかないのに、大雪のときは危ないから送らなきゃいけない、送ってくれてと言われて、仕事がぎりぎりのときもあったけど何とかしてました。
- 1校になりましたってなったら、多分どの保護者も自分の子のことだから、しんどい思いはしなきゃいけないけど、何とか手配するんじゃないかって思います。忙しくても何とか時間をやりくりして、自分がだめだったら「おばあちゃんお願い」とか、「おじいちゃんお願い」とか言って、頼める環境にある人だったら多分それは可能だと思います。物理的な距離のことに関しては、何とかなるだろうぐらいの感覚でいます。
- (中学校の生徒が) 少なくなって、高校に行ったとき、もっと人数の多い中でうまく人間関係のコミュニケーションが取れなくて、そっちの方で苦勞する方が子どもたちにとってはよくない環境だと思う。1校にしてたくさん的人数の中でコミュニケーションや、「ここまで踏み込んでいいのかな」とか、距離感を掴むことを学ぶべきだと思います。少人数で仲良くなって、みんな仲良しでっていうのもあると思うけど、踏み込みすぎてしまう。そうするとそれを嫌がる子も絶対出てくるので、そっちの弊害の方がやっぱり怖いんです。人間関係をうまく築けなくなる、距離感がわからなくなる弊害の方が(懸念される。)
- 物理的な距離を考えず、1校の方がいいんじゃないかと思います。
- ( 委 員 ) 結論からすれば1校というところなんでしょうけども、1校新築になるとして、この話を早く進めていければ、(既存校舎にかかる多額の改修費用が必要なくなる。) 結果として、トータルの費用が抑えられる。
- ( 事 務 局 ) 皆さんのご意見を聞かせていただくと、中学校は人数から見ても1校なのかなという話で、当然そこに通学する手段とか、寄宿舎みたいなそういうことを、別途考え、配慮した中で計画を作らなくてはならないと感じております。
- あと改築の関係ですが、方針が出て答申いただいた中でこういうふうに(新築で) 進みましょうというのが示されれば、この資料の通りに改築するというにはならない。数年後に新築となっても、そこまでは(既存の) 校舎を使わなくてはいけなくて、子どもたちの安全を確保するための補修は必要になると思います。
- ( 委 員 ) 1校にした場合に、(既存校舎を) 改修しなくてもいいですが、いつかは解体しなくてはいけなくなる問題は出てきませんか？
- ( 事 務 局 ) いずれはそういう話になるかもしれませんが、旧校舎については、文化財の保管場所だったり、避難所や地域の人たちが集まれる場所づくり、検診会場などで使われていたりします。体育館についても社会体育施設として貸し出したたりもしています。学校がなくなったからといってすぐ壊すということではなくて、別の使い道があれば活用はできると思います。
- 改修するにしても学校として改修するよりは費用がかからないと思います。
- ( 教 育 長 ) 今回の諮問は規模とか環境の在り方ということでご意見をいただいています。地主がどうとか具体的な話になるとまた次の段階の問題が出てくるので、この検討委員会では規模、それから通学手段について最大限配慮していくような形で考えてもらいたいというような意見つきのものでまとめさせていただいて、具体的にどこという話は、また次の段階ということで考えていきたいと思っています。
- ( 委 員 長 ) 地域移行するクラブ活動を考えても、中学校1校であるということは、クラブチームと連携をしやすくなるというイメージがあります。
- ( 委 員 長 ) それでは、(2)魚沼市における中学校の適正規模については終了とします。
- ( 委 員 長 ) では、議事については以上とさせていただきます。

#### 日程第4 その他

- ( 委 員 長 ) その他となりますが、事務局から何かございますでしょうか。

(事務局) 令和7年度の会議日程についてご連絡をさせていただきます。  
第5回 令和7年5月21日(水) 19:00～ 302会議室  
第6回 令和7年6月23日(月) 19:00～ 302会議室  
第7回 令和7年7月28日(月) 19:00～ 302会議室  
第8回 令和7年10月2日(木) 19:00～ 302会議室

(事務局) 次回は小学校の方の話にも入りたいと思います。その後、第6回から第8回で答申に向けての意見をまとめていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員長) ほかにございませんか。  
無いようでしたら、日程第4その他を終了します。

## 日程第5 閉会宣言

(委員長) 以上で第4回魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会を閉会といたします。  
ありがとうございました。